

三次市酪農振興会

6/20,21 三次市市役所

酪農窮状理解を求む！  
市長に五項目の支援要請



三次市酪農振興会(橋本洋資会長)は、会員の酪農窮状への理解と対策を求めるため、増田和俊三次市長と沖原賢治市議会議長を訪問し、「酪農経営窮状支援緊急対策の実施要望書」を提出した。

この要望書作成にあたっては、六月二十日に緊急役員会を開催し、役員六名と事務局五名が出席した。

増田市長からは「酪農家の現状を聞き、行政としてサポートする責任があり努力したい。九月の議会では補正予算を検討したいので、もう少し具体的な内容をもって提出して戴きたい」とあった。

翌日は、沖原賢治市議会議長を訪問し要望書を手交した。

■三次市に要望した五項目

- 一 生乳生産基盤維持拡大支援
- 二 酪農経営コスト上昇救済支援
- 三 乳用牛防疫対策への支援拡大
- 四 次代を担う酪農担い手(後継者)への支援
- 五 市内保育所で県内産牛乳の使用支援

庄原市酪農連絡協議会

6/28 庄原市役所

庄原市長を  
表敬訪問

庄原市酪農連絡協議会(林智行会長)は、新市長の木山耕三氏を表敬訪問し、庄原市内の酪農家の現状を伝えると共に、基幹産業としての酪農発展のため、引き続き行政との連携と協力を求めた。

新市長には、庄原市における広範囲に分布する地域毎の酪農家戸数や飼養頭数、生乳出荷乳量等の資料をもって説明し、「引き続き酪農業に対する支援を行っていききたい」との力強い言葉を受けた。同協議会は今後、市への要望内容を纏めることとした。



甲奴郡酪農組合、神石地域酪農生産振興協議会

7/9 出雲大社三良坂分院

甲奴・神石合同畜魂祭 人も牛も健康に！



甲奴郡酪農組合(伊達薫組合長)と神石地域酪農生産振興協議会(河上康則会長)は昨年と同様に畜魂慰霊合同祭を執り行い、会員ら25名が神前にて家畜供養と無病息災を祈った。

その後は、三次市内に会場を移して合同の交流会を開催し、来賓出席の鈴木道弘専務(広酪)は、「私も頑張りますので叱咤激励の程宜しくお願ひします」と挨拶。続いて、広酪理事を3期務められた藤井鉄男氏から「畜魂祭を一緒にさせて頂き感謝しています。これからも新しい生命を大切に共に頑張って行きましょう」との乾杯発声で、交流会は賑やかに終わった。閉会にあたって、伊達

組合長が「暑くなりましたが、牛も人も健康であるようにより一層の注意を図って行きましょう」と述べられ、河上会長の広酪理事就任挨拶を交えた閉会挨拶で締めくくり、有意義なものとなった。

## 第8回庄原地区畜産共進会・16頭出品

首席 第1区:庄原実業高校

第2区:前谷隆博氏の出品牛が輝く



第8回庄原地区畜産共進会が開催され、旧庄原市から第1区11頭、第2区5頭が出品された。首席には第1区に庄原実業高校、第2区に前谷隆博氏の出品牛が選出された。

この結果を受け、8月23日開催の第8回庄原農協畜産共進会に、第1区の優秀賞8頭と、第2区の優秀賞5頭の合計13頭の出品が決定した。



市全体での

事業展開を模索

安芸高田市酪農連絡協議会(寺尾太志会長、会員二十一名)は、実出席十一名、委任状五名による出席のもと、総会を開催した。福島英徳副会長は「田安で飼料価格が高騰し酪農家を苦しめておりますが、皆さん元気でこの一年を頑張りましょう」と挨拶。また、安芸高田市の猪掛地域営農課長は「地域全体で取り組める事業であれば、市としても大いに協力したい」と挨拶された。

総会では、平成二十四年度事業報告並びに収支決算報告、平成二十五年度の事業計画(案)並びに収支予算(案)を上程し、全議案とも原

案どおり可決承認した。その他、西部畜産事務所の吉川氏による安芸高田市畜産プロジェクトにおけるETの取り組み説明を受け、今後の検討課題とした。

## 第43回通常総会

芸北酪農部会(齊藤正和部長)は第43回通常総会を開催し、関係団体を含め14名が出席した。来賓の酒井課長(北広島町芸北支所産業建設課)は「先の参議員選挙で自由民主党が勝利したが、政府の進めるアベノミクスの効果は農業に関しては未だ現れていない。その代わりに飼料、燃料が高騰している。行政としては地域就農対策など後継者育成に対する事業等を活用されたい」と紹介された。



上程議案は、平成24年度事業報告、平成25年度事業計画、賦課金徴収の3つで、全ての議案を可決承認した。総会終了後の懇親会では、厳しい酪農情勢下にあつて、現状の会員間で手を取り合い切磋琢磨しながら、今後の酪農を盛り上げて行こう」と締めくくられた。

世羅郡酪農振興協議会

7/12 甲山町 タイニー

新会長に内海利彦氏



世羅郡酪農振興協議会(鈴木道弘会長)は、平成二十五年度総会を開催し、会員九名の他、世羅町・農済・診療所・山陽乳業(株)・広酪からの出席があった。鈴木会長は「アベノミクスと言われる政策のために飼料価格の高騰を招き、大変厳しい一年であった。消費者の不況に伴う牛乳消費減少、TPP参加問題、更に高騰する飼料価格と生産資材価格等の新たな問題を抱え依然として不安な酪農情勢が続いています。会員も七戸になりましたが、互いに助け合いながら健康管理に注意し、酪農環境の早期好転に関係機関の支援も頂きながら頑張りましょう」と協議会の概況を含めて挨拶。上程した平成二十四年度事業報告並びに収支決算、平成二十五年度事業計画並びに収支予算案、役員改選の三つの議案は全て可決承認した。

役員改選では、会長に内海利彦氏、副会長に藤井康浩氏、会計に岡田健夫氏が選任された。この他、平成二十四年度優秀生乳出荷者として四名が表彰され、記念品が贈られた。懇親会では、地元選出の鈴木専務に対しての期待が寄せられ、大いに盛り上がった。

三原市酪農振興会

7/18 三原市久井支所・就業構造改善センター

乳価・飼料・TPP等不安募る  
知恵を絞って連携を

三原市酪農振興会(新舎和久会長)は、平成25年度第8回総会を開催し、会員7名、関係機関8名が出席した。開会にあたり、新舎会長は日頃の御礼に加え、「厳しい夏ではあるが暑熱対策を今からでも実施して乗り切りましょう。厳しいのは暑さだけではなく、経営面も同じで、我々の努力だけではどうしても出来ない乳価や飼料価格の高騰、TPP参加による影響から不安は隠しきれない。先般の広酪の総会で議長を務めさせて頂いたが、組合員の思いや広酪に対する不満等が感じられた。鈴木専務の役員選出には期待しているので、我々も意見や知恵を出し合い協力していきたい。会員の高齢化もあるが、頑張っていきたいので関係機関には一層の協力と支援をお願いしたい」と挨拶された。

来賓の鈴木道弘専務(広酪)は、広酪の代表理事専務の就任挨拶に加えて、「組合長も私も酪農家である事で新しい改革が出来るのではないかと考えている。生乳出荷者も150戸近くになったので、広酪の在り方、職員、手数料についても考えている。TMRセンター統合では新しい製品を作ることで安価で安心して使って頂ける物を作っていきたい」として、乳価情勢や自民党への要望運動等にも触れて近況を伝えた。

続いて、総会議案の審議に入り、玉川功士副会長の議事進行によって、3つの上程議案全てを可決承認された。

その他、東部畜産事務所から口蹄疫の発生状況、県共進会の説明、三原市の補助事業説明があり、その後は昼食をとりながらの和やかな懇親会で交流を深めた。

